

## 三陸わかめブランドの復活と地域水産業の復興に資するトータルソリューション

(金融機関名) 七十七銀行

<p>1. 動機（経緯）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三陸沿岸地域でワカメの養殖・加工販売事業を営むA社グループは、東日本大震災の津波被害からいち早く復旧し、他の養殖業者等からの要請に応じ、買付量を大幅に増やし、復興を牽引していた。ただし、地域全体としては、同業者の撤退もあり、水揚量が加工能力を超過する供給過剰の状況が続き、地域水産業の大きな課題となっていた。</li> </ul>
<p>2. 概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A社社長から当行に相談があり、営業店と本部が連携のうえ協議を開始。A社の現有設備では更なる買付要請に応えることが困難と判断。一方で、ワカメの流通量減少による大手流通・スーパー各社からの増産要請があるなど、販路は確保していることから、新工場の建設を提案。自治体との連携支援、事業計画作成支援、外部専門家との連携支援、金融支援等の総合的な支援を開始。</li> <li>まずは業容の拡大を見据え、家族経営体質からの脱皮の必要性を提案。次期後継者及び製造部門統括者を交えて、新たな経営ビジョンを策定。策定の際は、当社の成長フェーズを意識した中期的な視点での実現性・実効性を考慮し、会社としての組織体制を整備。</li> <li>経営ビジョンを明確にしたうえで、事業計画の策定に着手。コンサルティング会社と連携し、自治体の復興推進計画・産業振興施策、川上（漁協、生産者）、川下（販売先）の意向を反映した事業計画を策定。</li> <li>また、復興推進計画を踏まえた支援の必要性から、県及びB市との協議を実施し、公的支援制度や補助事業の活用等の支援策を含め、A社グループに提案。</li> <li>25年8月及び11月につなぎ融資を計3回実行したうえで、新工場は26年3月に竣工。自治体及び外部専門家との連携体制を構築し、公的機関と民間機関が一体となってA社グループに対する支援を行った結果、融資の実行につながった。</li> </ul>
<p>3. 成果（効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養殖わかめの国内生産量75%を占める国内最大の生産地でもある「三陸沿岸地域」の復興を支えるべく、当行のコンサルティング機能や資金仲介機能を活用し新工場建設を後押しすることで、地域及び業界の課題解決、新規雇用の創出に貢献。</li> <li>当行が中心となり、公的支援機関の専門家や外部の専門家との連携による支援を実行。家族経営体質から脱皮を図るべく、社内体制の整備（人・モノ・金）を同時に解決し、A社の成長基盤の確立に貢献。</li> </ul>
<p>4. 今後の予定（課題）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事例（個別事案）に関する今後の取組み             <ol style="list-style-type: none"> <li>付加価値を高めた商品の開発と販路拡大、6次産業化への取組み</li> <li>事業承継を見据えた後継者育成</li> <li>高度衛生管理にかかるHACCP認証の導入</li> </ol> </li> <li>同様の事例に対し、組織として対応していく場合の今後の課題・取組み             <ol style="list-style-type: none"> <li>地域、地場産業が抱える潜在的な課題を把握し、外部専門家の活用や補助事業等の実効性のあるソリューション提案ができる人材の育成</li> <li>国、自治体、支援機関等に対する情報収集の強化と営業店（現場）に対する情報発信の強化</li> </ol> </li> </ul>